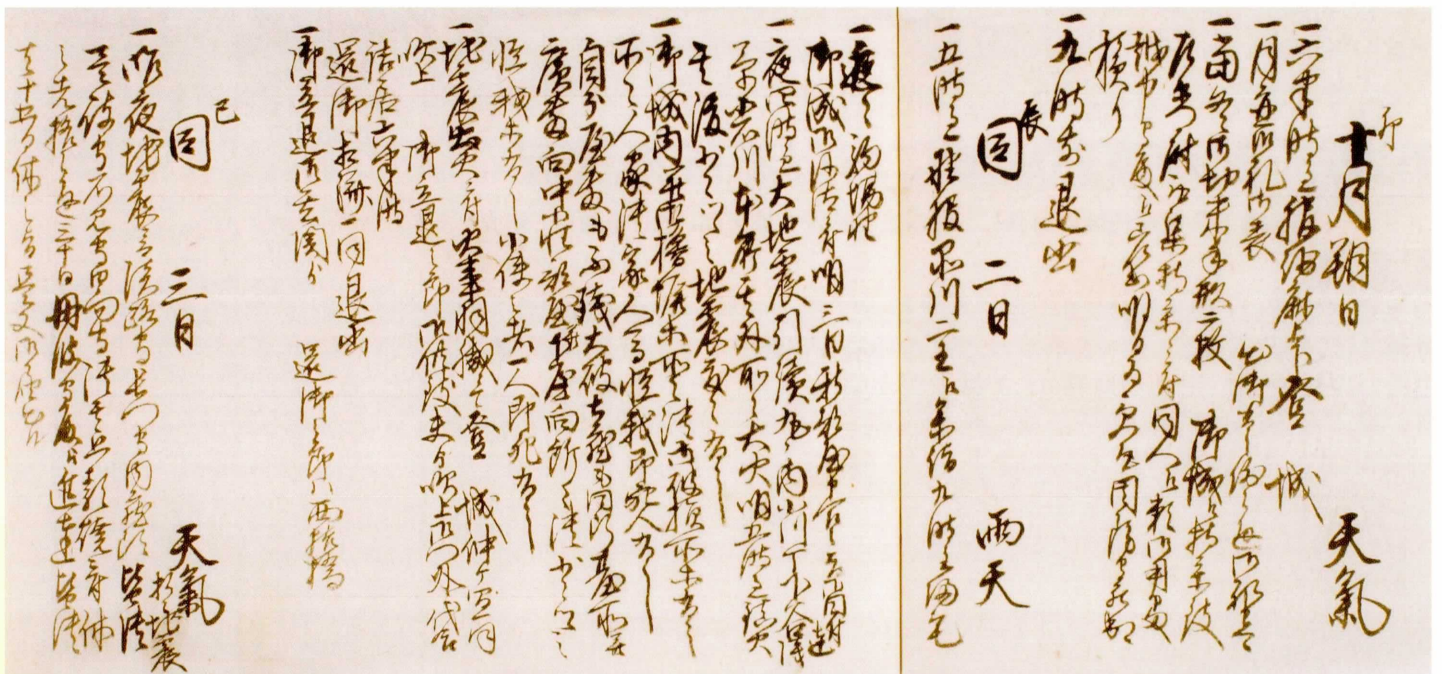


平成17年度 第1回 収蔵文書展

# 安政の大地震 150年

武蔵東部の被災状況と  
震災情報の伝播

平成17年 10月22日(土) ~ 12月11日(日)



震災を体験した旗本の日記(稲生家No.14)より10月2日の記事

## 開催にあたって

当館では、県の公文書や古文書をはじめとする歴史的価値のある文書資料を収集・整理・保存し、閲覧に供するとともに展示や様々な活動を通して普及を図ってまいりました。

今年は、阪神・淡路大震災から10年という節目の年に当たります。また、新潟県中越、宮城県沖などで次々と地震が起り、防災に対する関心は益々高まっています。

そこで、今回の文書展では、150年前に起こった安政2年(1855)の大震災を取り上げ、当時の被害状況や震災復興の歩み、災害情報伝達の実状について、収蔵文書を通して紹介いたします。この展示会が、過去の出来事を振り返るとどまらず、地震に対する備えについて改めて考える契機となれば幸いです。

最後に、貴重な文書を御寄贈・御寄託くださいました所蔵者の方々をはじめ、この収蔵文書展を開催するにあたり御協力をいただきました関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成17年10月

埼玉県立文書館

# 埼玉県立文書館

SAITAMA PREFECTURAL ARCHIVES



会期中に展示替えを行います。このため、本紙に掲載されている文書であっても展示されていない場合があります。展示順序は本紙の展示番号順と異なることがあります。会期終了後、下記の文書は当館2階文書閲覧室でご覧いただくことができます。(一部は複製本による閲覧となります。)資料名称のうち補題は、編集上の都合から文書目録における表記と一部異なる箇所があります。

## 第1部 10月2日の夜、地震発生

直下型地震による江戸の被災状況と幕府の対応を日記・触書や出版物により紹介します。

### 概説

安政2年10月2日(1855年11月11日)午後10時頃、江戸直下型の地震が起こりました。地震の大きさは、建物の倒壊状況の記録から、M(マグニチュード)6.9程度(大正12年の関東地震はM7.9、平成7年の兵庫県南部地震はM7.3)と推定されます。被害状況は様々に記録されていますが、倒壊・焼失した建物は14,000戸以上、死者は4,000人以上と推測されます。江戸に在府していた旗本の日記によれば、余震は断続的に12月8日まで続いていたことがわかります。

**資料概要** 1は震災を実体験した旗本稲生正興の日記。2は被災した大名の執事免除などの触書。3は震災後に発生した火災の様子を描いた錦絵。4~6は震災の被害状況を報じた摺物。5には被災者を収容する御救小屋が設けられたことが記されています。

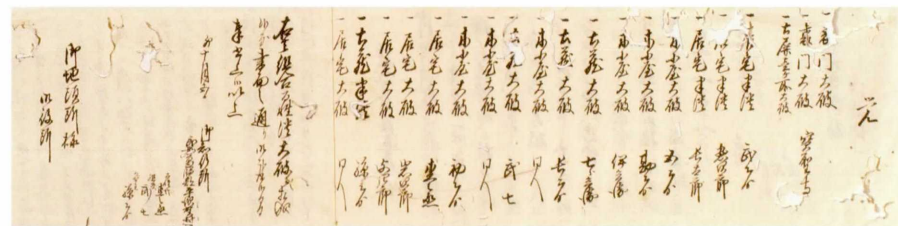
展示番号	年月日	資料名称	文書番号
<b>(1) 江戸在府中の旗本の日記における記載</b>			
1	安政2.正.	日記(安政2年正月~同年12月)	稲生家14
<b>(2) 震災直後の幕府から大名・旗本への触書</b>			
2	[安政2.10].	[地震二付御触書]	西角井家7747
<b>(3) 当時の出版物からみる江戸の震災状況</b>			
3	[安政2].	新吉原大地震大火之図《錦絵》	小室家6367-1
4	安政2.	安政二卯十月二日大地震 附類焼場所《摺物・多色刷》	篠崎家4321
5	安政2.10.10	大江戸類焼地震所附《摺物・墨単色刷》	小室家4807
6	安政2.	関東江戸地震并大火方角場所附《摺物・墨単色刷》	小室家4808

## 第2部 武蔵東部地域における被災状況

埼玉県東部地域の村落における被災状況を被害届けなどを通して紹介します。

### 概説

地震の被害は埼玉県のほぼ全域に及びました。比企丘陵の村落では建物に亀裂が入る程度でしたが、東部低地の村落では、怪我人は少なかったものの、多くの建物が全壊または半壊するなど甚大な被害をもたらされました。また、利根川沿いの村々では、田畑が地割れして砂や泥が噴出し、耕作地が荒地になってしまったところもみうけられます。さらに、河川の堤防が切れたことにより耕作地に泥水が流れ込み、収穫前の作物に被害をもたらされた地域もありました。



11. 東部低地に立地する村落からの被害届 [大地震二付御地頭所様江書上帳 (船川家No.436)]

**資料概要** 7~8は被害届の提出を命じた廻状。10~26は各村々の被害状況やその後の対応を記した文書。11は9の雛形に応じて作成された被害届けの様式もうかがえます。16~23からは土砂の液化現象による被害が確認されます。26は氷川神社で地震を治める祈禱を実施する旨の廻状。27~28は貯蔵穀物の供出に関する文書。29~30からは震災後の悪党徘徊などによる治安の乱れを、31~33からは復興事業にかかわる職人や資材の高騰を抑制しようとする政策を読み取ることができます。

<b>(1) 被害状況取調の通達</b>			
7	[安政2].10.2	廻状(大地震被害取調二付)	増田(豊)家711
8	[安政2].10.8	廻状(大地震被害取調二付)	増田(豊)家713
9	[安政2].10.8	[地震の被害届雛形]	増田(豊)家714
<b>(2) 平須賀村(現.幸手市)の場合</b>			
10	安政2.10.5	乍恐以書付御注進奉申上候(地震による潰れ、大破二付)	船川家1534
11	安政2.10.5	大地震二付御地頭所様江書上帳	船川家436
12	安政2.10.(5)	乍恐以書付奉願上候(稀成大地震二付御拝借奉願上候二付)	船川家2150
13	安政2.12.	御請書之事(大地震二付拝借金)	船川家1324
<b>(3) 上金崎村(現.春日部市)の場合</b>			
14	安政2.正.吉	御用留(安政2年正月~同年12月)	土生津家4488
<b>(4) 琴寄村(現.大利根町)の場合</b>			
15	安政2.8.	地方御用留(安政2年8月~同4年2月)	小林(茂)家1125
<b>(5) 新堀村(現.葛蒲町)の場合</b>			
16	安政2.7.朔	御用留帳(安政2年7月~同4年6月)	大熊(正)家1418-1
17	安政2.10.5	乍恐以書付奉願上候(二日夜大地震被害場所御見分願、控)	大熊(正)家3781
18	安政2.10.5	当卯年十月二日夜大地震二付畑方砂荒反別取調帳	大熊(正)家3746
19	安政2.10.6	当卯年十月二日夜大地震二付畑方砂荒反別取調上之写帳	大熊(正)家3757
20	[安政2].10.6	大地震二付畑方反別砂荒場書上帳	大熊(正)家629
21	安政2.10.12	青木平助様大地震二付家作并砂荒地御見分御出役人用上下割合帳	大熊(正)家46



22	安政2.12.14	来辰年御伝馬賃金御改革入用并地震二付諸入用上下引裂帳	大熊(正)家65
23	安政3.12.21	去ル卯年十月二日夜大地震二付砂荒場畑御下ケ割合帳	大熊(正)家3745
<b>(6) 武蔵一宮・氷川神社(現.さいたま市)の場合</b>			
24	卯(安政2).10.6	口上覚(大地震二而建立場所破損届)	西角井家2286
25	卯(安政2).10.(6)	口上覚(二日夜大地震二付公方様へ御機嫌伺)	西角井家3731
26	安政2.10.8	[今般大地震二付祈祷執行廻状]	西角井家1591
<b>(7) 救済事業のあり方</b>			
27	安政2.11.	貯穀御用向控帳(稀なる災害二付貯穀拝借届)	森泉家936
28	安政2.11.	貯稗御下ケ穀割渡小前書上帳	銚子口区有796
<b>(8) 震災後の社会状況 一治安の乱れ、物価や職人手間賃の高騰一</b>			
29	安政2.10.	御取締御用留	野中家647
30	安政2.10.26	差上申御請書之事(江戸大地震二付患者共取締)	松岡家4029
31	卯(安政2).10.	申達書(奉公人給金・日雇賃金高値二付)	松岡家19
32	安政2.10.	大地震二付諸職人請書	諸井(興)家2
33	安政2.10.9	御触書小前請印帳(地震出火二付諸職人手間賃等)	銚子口区有539

## 第3部 領主の江戸屋敷再建と村々の負担

被災した旗本などの江戸屋敷再建に埼玉県域の村落が果たした役割を紹介します。

### 概説

旗本や大名などが江戸屋敷を再建するにあたり、幕府は必要最低限の仕様にすることを命じました。当時財政難であった旗本は、自己資金のみでは再建することが出来ず、幕府から一時金の支給を受けるとともに、領地の村落から建設資金を臨時に徴収しました。埼玉県域の村落は、領主の指示に従い資金を上納するにとどまらず、再建のための人足や資材なども供出することになりました。また幕府は、決壊した川堤などの復旧工事を行うため資金を村々から徴収しました。

**資料概要** 34・35は、再建する屋敷は雨露を凌げる程度の手軽なしつらえにするよう命じた触書。37は再建資金を領地の村落から借用した旗本の契約書。38～40は、この契約書に応じて村側で農民個々へ再建資金の割り当てを行った際の帳簿。48は普請工事に従事した手伝い人足の記録。49～53、55～57は旗本、54は忍藩の江戸屋敷再建にかかわる臨時支出に関する領収書や帳簿。このように臨時に徴収した金銭は、年貢の前倒しとして村から上納させました。58は資金を提供した者に対する褒賞状です。

#### (1) 幕府による武家屋敷再建指針

34	安政2.10.	太田摂津守殿御達御書付四通之写	西角井家1188
35	安政2.10.	太田摂津守殿御達御書付五通之写	西角井家1235

#### (2) 旗本稲葉氏領・平須賀村(現.幸手市)の場合

36	安政2.10.16	川々国役御地頭所地震御見舞右出府雑用御伝馬臨時わり合取立帳	船川家432
37	安政2.11.9	申渡(地震二付金子拝借)	船川家1325
38	安政2.11.6	乍恐以書付奉申上候(大地震による被害二付御普請)	船川家49
39	安政2.11.16	御地頭所様御姫様御婚礼并大地震二付夫金被仰付小前割賦帳	船川家752
40	安政2.12.9	御地頭所様拝借金小前割渡帳	船川家437
41	安政3.2.	大地震二付土蔵御修覆御用金村々割合帳	船川家425
42	安政3.2.	差上申御請書之事(大地震二付金子上納)	船川家1527
43	安政3.3.	御地頭所大地震二付土蔵御修覆御用金取立帳	船川家424
44	安政3.7.23	御地頭所大地震二付土蔵御修覆御用金取立帳	船川家423
45	安政4.2.	大地震二付御地頭所様御土蔵大破二付立替御普請金取立帳	船川家422

#### (3) 旗本鶴殿氏領・長間村(現.幸手市)の場合

46	[安政2].10.18	[地震二付廻状]	幸手図295
47	[安政2].12.25	廻状(安政大地震二付)	幸手図240

#### (4) 幕府領(代官林部氏)・琴寄村(現.大利根町)の場合

48	安政2.10.3	大地震手伝人足控	小林(茂)家1117
----	----------	----------	------------

#### (5) 旗本細井氏領・上江袋村(現.熊谷市)の場合

49	卯(安政2).10.8	覚(地震入用金請取)	長嶋家2492
50	卯(安政2).10.9	覚(地震入用金請取)	長嶋家2493
51	卯(安政2).10.11	覚(地震入用金請取)	長嶋家2490
52	安政2.12.	御国役・七月極掛・御仲間給金・地震上納金其外色々割合帳	長嶋家823
53	安政4.4.28	下知書之事(地震二付住居修復金)	長嶋家2115

#### (6) 忍藩(松平下総守)領・大塚村(現.熊谷市)の場合

54	安政2.12.	江戸表御上屋敷大地震御潰御焼失二付御用金御口達書御請印帳	松岡家27
----	---------	------------------------------	-------

#### (7) 旗本嶋田氏領・代山村(現.さいたま市)の場合

55	安政2.11.	下知書之事(地震差支二付御下ケ金)	小池氏収集793
56	安政2.11.	下知書之事(地震差支二付金子高割取立)	小池氏収集794

#### (8) 旗本伊奈氏領・植田谷本村(現.さいたま市)の場合

57	安政3.4.	一札之事(地震修復御用金請取)	小島家174
----	--------	-----------------	--------

#### (9) 御三卿一橋領・梅原村(現.日高市)の場合

58	辰(安政3).7.	申渡(去卯地震二付永上納奇特褒美)	堀口家1183
----	-----------	-------------------	---------

#### (10) 旗本松平氏領・太田部村(現.秩父市)の場合

59	安政2.10.14	御府内大地震二付御用財人選高割覚帳	新井家324
----	-----------	-------------------	--------



# 第4部 伝えられる江戸の震災情報

江戸の震災情報が、どのような手段、内容によって周辺の村落に伝えられたのか紹介します。



## 概説

江戸における震災状況に関する情報は、速やかに江戸近郊の村々へ伝わっていきました。それは、人や物資の行き来が江戸と周辺村落の間で密接であったことに関係がありました。震災情報は、領主からの公式通達文のほか、江戸で被災した人からの書状という私的ネットワークによっても伝わりました。また、墨刷りの出版物や現在の時事漫画に相当する鯰絵により、被災の詳細な情報・震災後の江戸の世相や庶民感情が、現地を訪れなくとも容易に入手することができました。

## 資料概要

60は領主から公務を命じる際に村々へ順達する廻状による震災情報の伝達。61は川越藩士沼田一斉から川越藩領赤尾村(現坂戸市)名主林信海あてに、62は儒学者寺門静軒から甲山村(現熊谷市)名主根岸友山あてに出された江戸の震災情報を伝える書状。63-64は江戸の被災状況をまとめた摺物で、国元へ送る書状に添付されることを念頭において作成されたものです。65-68は震災後の江戸の世相を報じた鯰絵。69は三室村(現さいたま市)の名主の家に残されていた鯰絵を筆写した資料。70-71は震災の状況・復興の動向や被災の教訓を体系的にまとめた版本。72は地震のメカニズムを説いた西洋の地学書の翻訳。

69.震災後の江戸の世相を描いた鯰絵の写[地震絵之写(武笠(寛)家No.37)]より出現苦動明王

展示番号	年月日	資料名称	文書番号
<b>(1) 廻状による伝達</b>			
60	安政2.正.吉	御用留(安政2年2月~同年11月)	宇野家169
<b>(2) 書状による伝達</b>			
61	乙卯(安政2).10.12	[安政大地震江戸の様子二付沼田一斉書状]	林家8984
62	[安政2].10.16	[大地震江戸の様子等二付寺門静軒書状]	根岸家5051
<b>(3) 出版物による伝達</b>			
63	[安政2.10].	安政二卯年十月二日夜四ツ時過御府内御屋敷方市中共地震類焼場所明細書之写并街道筋近郷聞書《摺物》	川島家610
64	安政2.11.3	安政二卯年十月二日夜四ツ時過御府内御屋敷方市中共地震類焼場所明細書之写并街道筋近郷聞書 十一月三日改《摺物・63の増補版》	船川家2271
<b>(4) 時事報道の錦絵である鯰絵による伝達</b>			
65	[安政2].	恵比寿天申訳之記《鯰絵》	増田(豊)家1288
66	[安政2].	地震除妙法《鯰絵》	小室家6367-2
67	[安政2].	持丸たから出船《鯰絵》	小室家6367-4
68	[安政2].	地震げん《鯰絵》	小室家6363-5
69	安政2.12.	地震絵之写《鯰絵の書写本》	武笠(寛)家37
<b>(5) 記録・編纂される江戸の震災情報</b>			
70	[安政2].	地震後教《木版本》	小室家3368
71	[安政3].	安政見聞誌 上・中・下《木版本》	小室家2743~2745
72	安政3.4.	地震預防説《木版本》	小室家2329

## 主な参考文献

当館2階文書閲覧室でご覧いただくことができます。

第1部	震災予防調査会編『大日本地震史料』(思文閣 1973年)	『春日部市史 第6巻 通史編I』(春日部市 1994年)
	宇佐美龍夫『大地震 古記録に学ぶ』(そしえて 1978年)	『天変地異 文書にみる近世埼玉の災害』(埼玉県立文書館 1996年)
	北原糸子『安政大地震と民衆 地震の社会史』(三一書房 1983年)	『幸手市史 近世資料編II』(幸手市 1997年)
	『新収日本地震史料 第5巻別巻2-1』(東京大学地震研究所1985年)	『小川町の歴史 資料編5 近世II』(小川町 2001年)
第2・3部	宇佐美龍夫『新編 日本被害地震総覧』(東京大学出版会 1991年)	『大利根町史 通史編』(大利根町 2004年)
	『新収日本地震史料 第5巻別巻2-2』(東京大学地震研究所1985年)	気谷 誠『鯰絵新考 災害のコスモロジー』(筑波書林 1984年)
	『新編埼玉県史 別編3 自然』(埼玉県 1986年)	高田 衛・宮田 登監修『鯰絵 震災と日本文化』(里文出版 1995年)
	『新編埼玉県史 通史編4 近世2』(埼玉県 1994年)	北原糸子『近世災害情報論』(塙書房 2003年)

**参考情報** 明治以降の地震を含む災害については、次回の収蔵文書展[平成18年1月21日~3月12日]で紹介する予定です。

平成17年度 第1回 収蔵文書展

## 安政の大地震 150年

武蔵東部の被災状況と震災情報の伝播

発行日：平成17年10月

編集・発行：埼玉県立文書館

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-3-18

TEL 048-865-0112 FAX 048-839-0539

<http://www.prefsaitama.lg.jp/A20/BA18/index1.html>

## 利用案内

- 開館時間 午前9時~午後5時
- 休館日 月曜日(ただし11月14日は開館、翌15日(火)は休館) 月末日、国民の祝日・休日
- 交通案内
  - ・JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線：浦和駅西口下車/徒歩12分 又は国際興業バスで「県庁裏」下車徒歩0分
  - ・JR埼京線：中浦和駅下車/徒歩15分

